

(4)中央環状線の必要性と整備効果

21世紀型都市再生を目的に内閣に設置された都市再生本部において、「首都圏三環状道路」が重点プロジェクトとして決定されました。

中央環状線は、「首都圏三環状道路」の中で東京都区部の主要拠点を結び、放射方向の道路と組み合わせて首都高速道路全体のバランスよい利用を可能とし、首都機能の維持・増進を図る総延長約47kmの路線です。

このうち、北側区間を形成する中央環状王子線が平成14年12月25日に開通しました。その結果、箱崎・両国JCTや竹橋JCTの通過時間が

2～3割短縮し、全体として渋滞の量が約1割減少する等、開通効果が現れていますが、さらにより大きな環状機能を発揮するには、西側区間の延長約11kmの中央環状新宿線の整備が必要であり、平成18年度内の完成を目指し、精力的に建設を進めています。

<中央環状線の概要図>



中央環状新宿線の整備効果

東京都区部の渋滞緩和に大きく貢献

中央環状王子線と併せ環状機能が高まることにより、東京線の渋滞が約6割減少すると予測しています。また、並行する一般道路の交通の一部が、首都高速道路利用に転換するため、一般道路の交通もスムーズになります。

3大副都心が直結

渋谷・新宿・池袋間が首都高速道路で直結されるため、「渋谷～池袋」間の所要時間が50分から20分に短縮されます。これにより副都心の連携が強化され、商業圏が大幅に拡大されるとともに、首都圏のさらなる活性化に貢献します。

環境改善に貢献

交通の流れがスムーズになり、自動車の排気ガス量が減少することにより沿道環境が改善されます。また、二酸化炭素(CO₂)が削減されることにより、地球温暖化の抑制にも貢献します。

大きな経済効果を発揮

走行時間の短縮や事故の減少などによる整備効果は、年間約1,770億円と試算しています。